第１節　粘土採掘坑のまとめ（図47～50）

（粘土採掘坑とした理由）

今回の調査で土器を製作するための粘土を採集する粘土採掘坑を検出した。最初に粘土採掘坑の名称であるが、可児通宏氏（可児1999）が粘土採掘坑で解説した。『…土器製作のための粘土の採取を目的に掘られた土坑、これまで粘土層にまで掘りこまれ、その位置で巾着状に広がっている土坑…』を粘土採掘坑として定義する。

稲元遺跡の調査当初は、風倒木痕ではないかと思われた。しかし、調査が進むにつれて、風倒木痕の特徴であるローム土の逆転がみられず堆積土が風倒木痕と相違する点、埋土の堆積が人為堆積である点などから、風倒木痕と様相が異なる点が多く、自然による遺構では無く人為的要素による遺構と判断した。なお、粘土採掘坑は直径約１m（人が１人入れる）の範囲で平安時代の生活面から下位方向に縦掘りをし、下位の白色粘土層に達したとき横方向に横掘りをしている。底面は平坦ではなく凹凸が目立つが面的にはしっかりしている。断面は縄文時代に構築されるフラスコ状ピットをイメージできるが、横掘りの深さは不規則であり一定していない。なお横掘りは手の届く範囲である。このような遺構については、意識的に粘土を採取するための粘土採掘坑であると現地で判断した。

（稲元遺跡の粘土採掘坑）（図49－１）

本遺跡からは６箇所の粘土採掘坑を検出した。第１号粘土採掘坑は、グリッドＥＱ－143で調査区の北側に位置し、他は全て調査第Ⅳ区の南側に集中している。全体の遺構配置から、北側を住居跡・南側を粘土採掘坑とすみ分けを行っている。調査は道路幅という限られた調査区なので全容は調査できなかったが、第２号粘土採掘坑は長さ約17mを測り、その全体の規模は倍になると予想される。また、堆積状況を概観すると、人為堆積と自然堆積がみられ、当時は全ての穴が解放された状態ではなく、採掘した排土を近くの穴に廃棄して採掘したことがうかがえられる。構築時期は、土坑の下位から土師器・須恵器が出土していることや、埋土上位に降下した白頭山火山灰を検出していることから、白頭山火山灰以前の平安時代（10世紀頃）と考えられる。

（縄文時代・古墳時代・平安時代の粘土採掘坑）（図47～49）

青森県内で縄文時代の粘土採掘坑と指摘したのは、平成８年に刊行した三内丸山遺跡の報告（小笠原1996）で、小笠原雅行が粘土採掘坑と報告したのが最初である。三内丸山遺跡の粘土採掘坑（青森県1994）は、1994年に刊行の報告書の中で記載されている竪穴遺構としたものであり総数は10基で、第７号竪穴遺構（粘土採掘坑ではない）を除外した９基が相当すると思われる。最大の規模は第１号竪穴遺構で長軸20.5m・短軸19mの規模を有するもので、特徴としては住居跡に隣接している点と深さが浅く、集中した範囲内に粘土採掘坑は分布している。なお、平成14年の『青森県史別編 三内丸山遺跡』（小笠原2002）でも粘土採掘穴[注(1)]として記載している。

このような縄文時代の粘土採掘坑は、青森市近野遺跡[注(2)]で縄文時代後期の第D1号性格不明遺構・第D2号性格不明遺構（青森県2007）、と青森市三内沢部（３）遺跡（青森県2007）で縄文時代中期の第B1号性格不明遺構が、形態・規模・構造等から粘土採掘坑と判断できるものである。一方、性格不明遺構と命名したのは三内丸山遺跡で粘土採掘坑を提唱した小笠原雅行であり、何故に性格不明なのかについては、報告書でふれていない。小笠原雅行が近野遺跡の第D2号性格不明遺構の記載の中で『…

廃棄しながら掘り込みが続けられる…』としているので人為的な遺構であるという認識はしているようである。このように名称が異なるのは、三内丸山遺跡と周辺の遺跡とでは、全く別途の次元で把えているのか小笠原雅行の見解を知りたいところである。また他県では、秋田県大館市の家ノ後遺跡（石川・及川・谷地・柴田1994）でも検出しており、規模の小さいSK59・61土坑を粘土採穴坑の試掘坑としている。三内丸山遺跡で検出された規模の小さい第３・４・６号遺構などは、試掘坑の可能性も考えられる。なお、北秋田市伊勢堂岱遺跡（秋田県1999）の報告書の中で、SKSと分類した土坑は粘土採掘坑であると理解している。このことは関西方面で京嶋覚氏（京嶋1995）が粘土採掘坑を群集土壙として間違って把握しているという指摘は、そのまま伊勢堂岱遺跡のSKSにあてはまると考えられる。[注(3)]

縄文時代以降では平安時代に土器を焼く遺構（焼成遺構）については、青森市朝日山（２）遺跡・野木遺跡（中嶋2002）から検出し判明しているが、土器の素地である粘土を採取した遺構については定かではなかった。特に青森市の野木・新町野遺跡のように、平安時代の集落をほぼ全域調査したにもかかわらず検出していないことから、不明な遺構であった。今回の検出によって、平安時代の粘土採掘坑が確認された。また、平成20年の青森県埋蔵文化財調査センターにおける弘前市扇田（２）遺跡の調査[注(4)]でも検出されており、徐々にではあるが、平安時代の粘土採掘坑が増加してきている。

次に青森県以外の地域の粘土採掘坑をみてみたいと思う。東北地方・関東地方（群馬県波志江中宿遺跡のみとりあげた）では下記の遺跡から検出している。

ａ．宮城県河南町関ノ入遺跡（河南町2000）（図50）

粘土採掘跡（第４号粘土採掘坑跡）が１基検出、長軸8.9mで不整円形を呈する。堆積土中に十和田ａ火山灰層があるため平安時代と思われる。なお報告書では露天掘り型と分類しており、平成２年報告（河南町文化財報告第４集・当センターに収蔵していないため閲覧することができなかった。）によると、トンネル状に掘削（？）したタイプの２種類があるとしている。

ｂ．宮城県利府町大貝窯跡

みやぎ文化財発掘出土情報2000－発掘ニュースによれば、大貝窯跡から９世紀前半～10世紀初頭の粘土採掘坑が遺跡の西側斜面で検出したとのことであるが、報告書を閲覧することができなかったので詳細については不明である。

ｃ．福島県郡山市正直A遺跡（福島県1994）（図50）

粘土採掘坑（１号粘土採掘坑）が１基検出。形態は不整楕円形で大きさは10mを測る。時期は古墳時代（南小泉式期）である。

ｄ．群馬県伊勢崎市波志江中宿遺跡（群馬2001）（図50）

古墳時代前期の粘土採掘坑を66基検出した。形態は長方形で長軸３ｍ・短軸２ｍを測り、作業道も確認されている。

以上のように、縄文時代と縄文時代以降の粘土採掘坑を比較すると、規模の大きさと、底面までの深さが相違する点があげられる。

（粘土採掘坑の検出意義について）

今回の発掘調査で、平安時代の大規模（調査者が大きいと思っているが、これが当時の普通の大きさかもしれない）な粘土採掘坑を検出した。ただし、今回の検出は特殊なものではなく、普通の集落であれば存在したものであると理解したい。今まで検出し得なかったのは、これらの遺構を当初から

風倒木痕として認識し調査から除外したことも考えられ、平安時代の調査方法を再考する必要が感じられた。このことは、翌年に調査した弘前市扇田（２）遺跡でも粘土採掘坑を検出し、探せばあるという感を強く意識した。なお、粘土採掘坑について、東京都NO248遺跡を調査した及川良彦は『…**粘土採掘坑は特殊な遺構ではないという点**である。列島内に限っても、早くは人類が粘土の利用を開始した旧石器時代以来、遅くとも最古の縄文土器の出現以来、連綿と粘土の採掘が行われたと考えられる。本文中でも述べたように**土器の数だけ粘土採掘が行われたと考えるべきである**。…』（ゴチックは当方で加筆）（及川2000）とした考えには同調するものであり、特別扱いすべき遺構ではないと考えている。このことは、西目屋村水上遺跡で発見した縄文時代の道跡と階段も『…全ての集落にあり、かつ存在した一要素…』（成田2008）と同じことであって、集落内にみられる住居跡と普遍的に変わらない集落の当然あるべき遺構セットの要素と考えられるものである。なお、粘土採掘坑と土器数量との関連を追及した及川良彦（及川2001）の研究も、粘土採掘坑の全容を調査した三内丸山遺跡では有効な方法と考えられる。

今後は新たな調査によって粘土採掘坑が増加し、集落内の位置づけが明確になるとともに本遺構がその一助となれば幸いである。

注

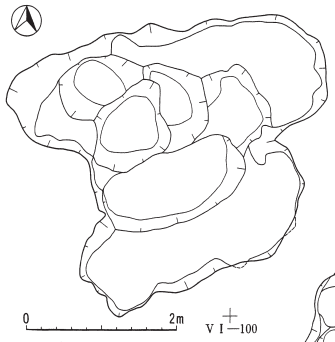
（１）三内丸山遺跡報告書の記載では、粘土採掘坑と粘土採掘穴という二種の記載であるが、本報告では可児通宏氏が解説した「粘土採掘坑」に統一する。

（２）同僚の杉野森淳子から近野遺跡の土坑群（青森県1977）も粘土採掘坑ではと指摘されたが、検討してみると粘土採掘坑の可能性が高いと思われ、近野遺跡が後期の段階で大規模な粘土採掘坑の場所であったと考えられる。

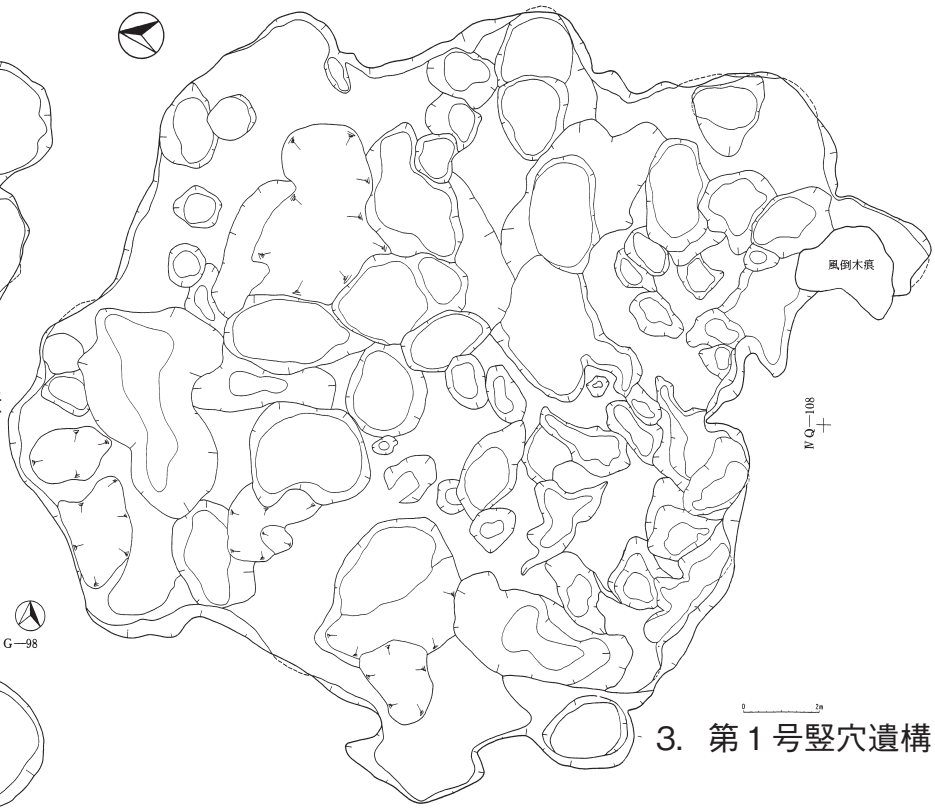
（３）伊勢堂岱遺跡での調査者である小林克は、以前、道南考古情報連絡協議会の会場で、三内丸山遺跡の粘土採掘坑を土坑の集合体と発言しているが、現段階でも、伊勢堂岱遺跡の遺構は全て土坑群として理解していると思われる。

（４）平成20年度に青森県埋蔵文化財調査センターが調査を実施し、平成22年３月に報告書が刊行される予定。

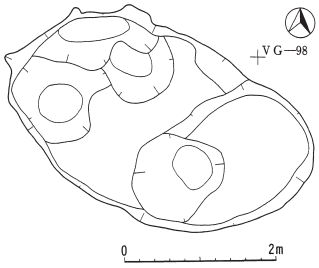
（成田）



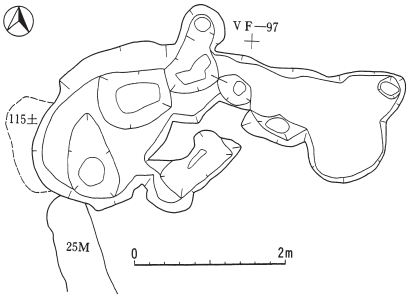
1. 第２号竪穴遺構



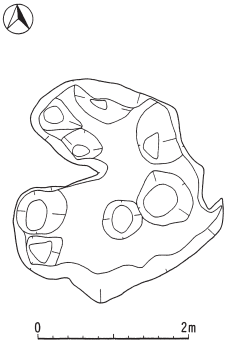
3. 第１号竪穴遺構



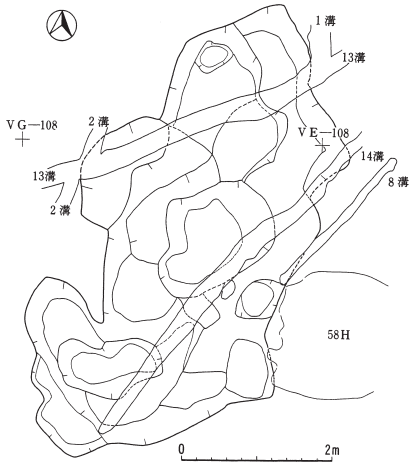
2. 第４号竪穴遺構



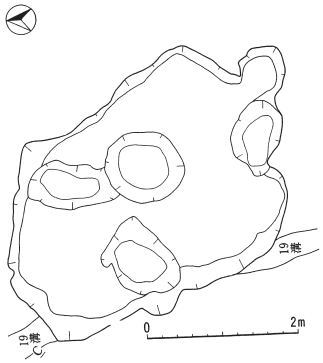
4. 第５号竪穴遺構



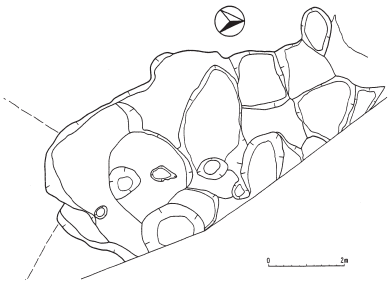
5. 第６号竪穴遺構



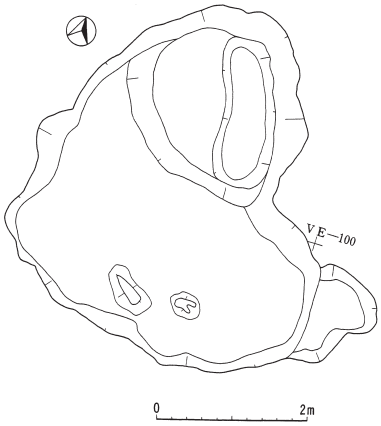
6. 第９号竪穴遺構



7. 第３号竪穴遺構

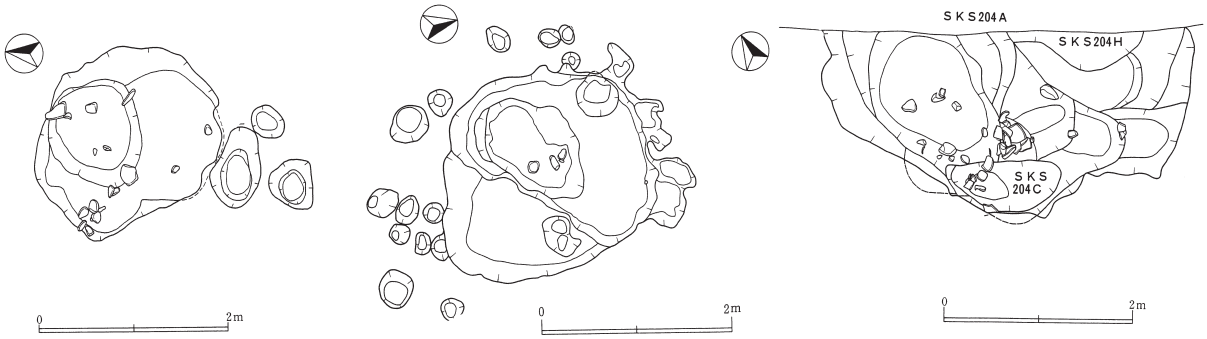


8. 第８号竪穴遺構

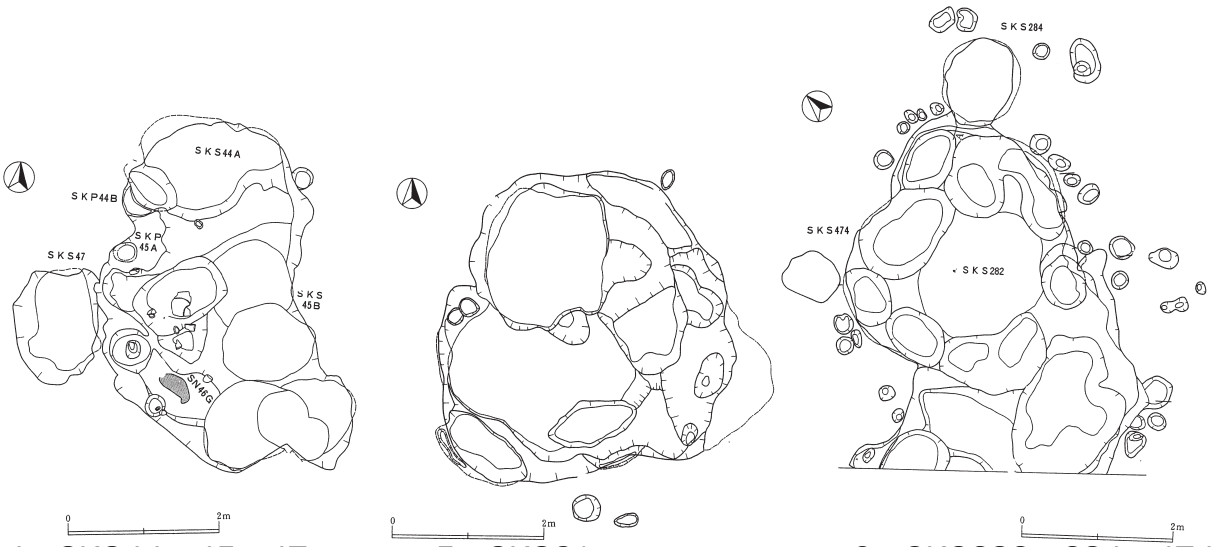


9. 第10号竪穴遺構
三内丸山遺跡

図47　粘土採掘坑（1）

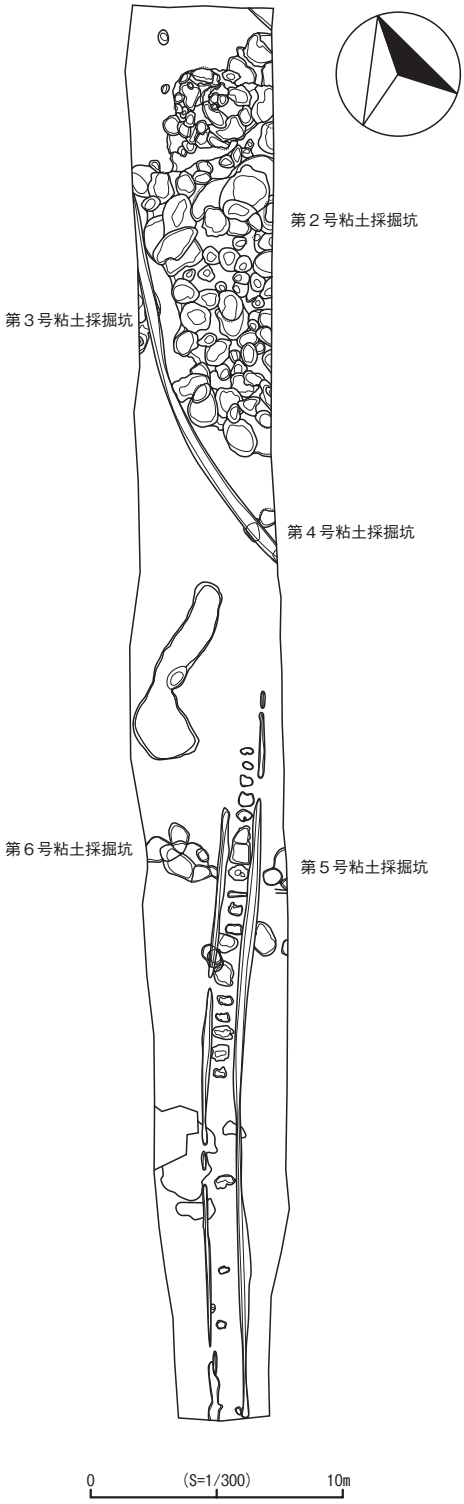


1. SKS28　　2. SKS40　　3. SKS204

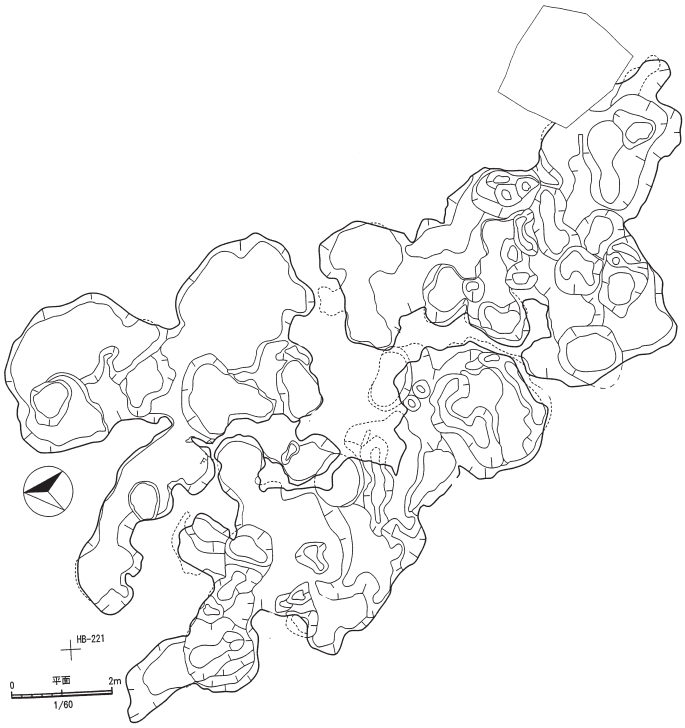


4. SKS44・45・47　　5. SKS31　　6. SKS282・284・474
伊勢堂岱遺跡

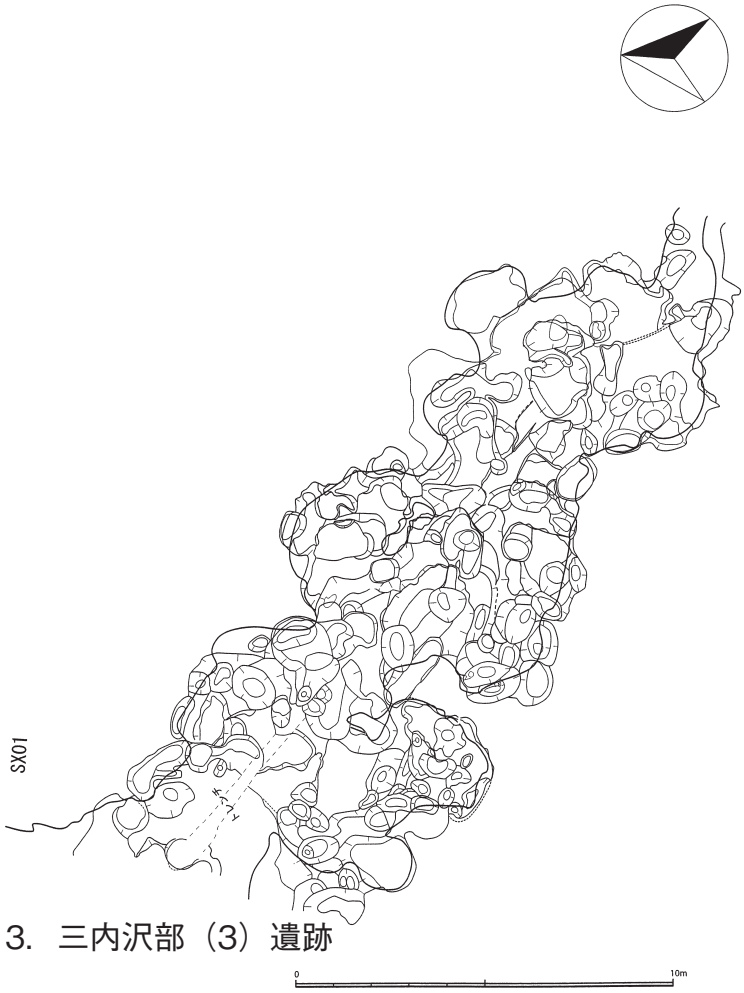
図48　粘土採掘坑（2）



1. 稲元遺跡

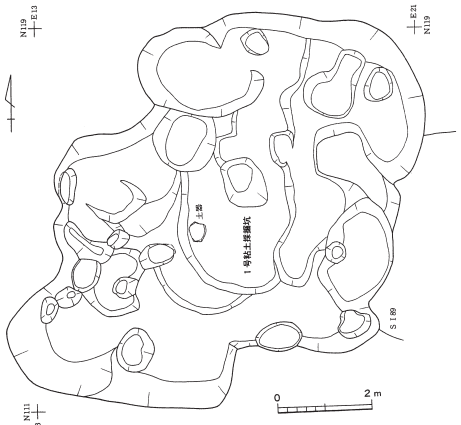


2. 近野遺跡



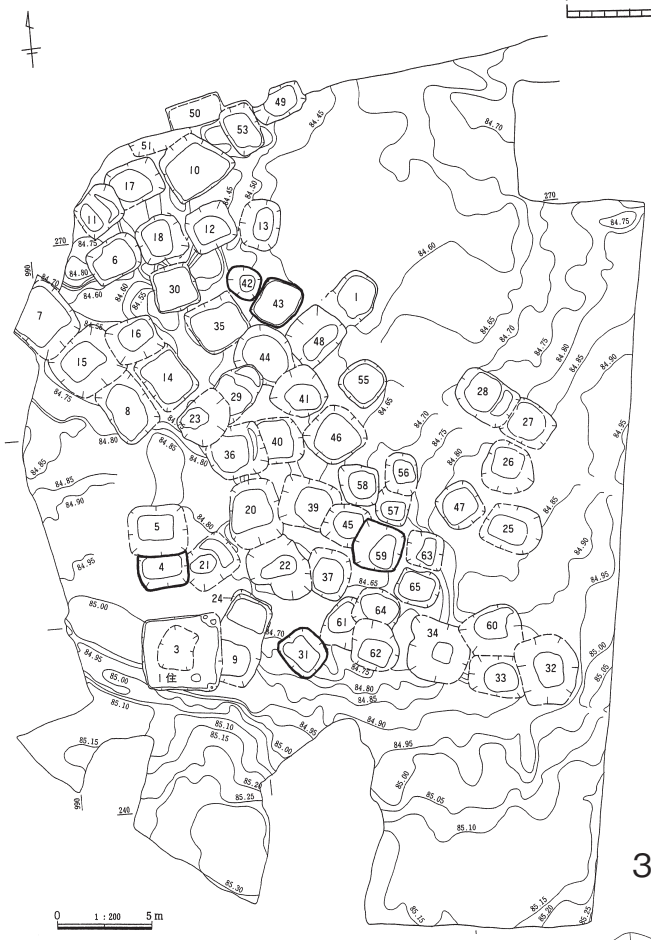
3. 三内沢部（3）遺跡

図49　粘土採掘坑（3）

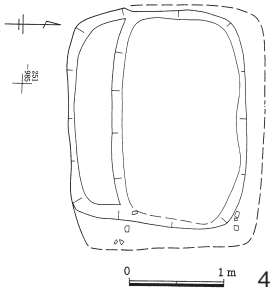


1.　正直A遺跡

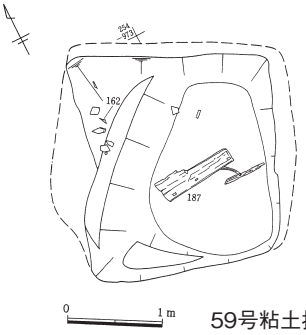
2.　関ノ入遺跡



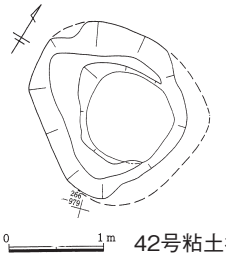
3.　波志江中宿遺跡



4号粘土採掘坑



59号粘土採掘坑



42号粘土採掘坑

43号粘土採掘坑

31号粘土採掘坑

図50　粘土採掘坑（4）